

「中区精神保健福祉ニーズに関する調査」報告書

横浜市中福祉保健センター

平成 23 年 7 月

目 次

I	調査の概要	P. 1
1	調査の目的	
2	調査の内容	
II	アンケート集計結果	P. 3
1	当事者アンケート調査	P. 3
2	家族・支援者アンケート調査	P. 17
III	中区での生活支援センターの方向性	P. 24
IV	資料	巻 末
	当事者アンケート、家族・支援者アンケート（自由記述）の回答内容	
	「中区精神障がい者の地域生活支援を考える会」報告書	
	寿地区における精神保健福祉に関する意見交換会 報告書	
	中区精神保健福祉ニーズに関するアンケート（当事者用）	
	〃	（家族・支援者用）

I 調査の概要

1 調査の目的

横浜市では地域で生活する精神障害者の支援、相談、地域における交流活動の促進等を行うことにより、精神障害者の社会復帰、自立及び社会参加の促進を図る拠点施設として1区1箇所精神障害者生活支援センター（以下、生活支援センター）の整備を進めています。中区では平成25年度開所に向けて整備を進めています。

この調査は生活支援センターの機能やサービス内容を検討するための基礎資料とすることを目的とし、中区にお住まいで精神疾患のある方及び家族・支援者（施設職員・ボランティア等）を対象にアンケートを実施することにより生活支援センターに対するニーズや意見を把握しました。

2 調査の内容

(1) 調査対象

① 当事者

中区内にお住まいで精神疾患のある方

② 家族・支援者

中区内にお住まいの当事者の家族及び支援者（施設職員・ボランティア等）

(2) 調査方法

中区内及び中区に関係している精神科医療機関、関係団体、関係施設でのアンケート（資料参照）の配布、回収

(3) 調査期間

平成22年8月～9月

(4) アンケート回収数

① 当事者 308人

② 家族・支援者 127人（うち家族20人・支援者100人・どちらか不明7人）

(5) 調査協力依頼先 (順不同敬称略)

①精神科医療機関

石川町クリニック、大石クリニック、関内メンタルクリニック
ことぶき共同診療所、寿町勤労者福祉協会診療所、青山会関内クリニック
パークサイド柴田メンタルクリニック、みなと赤十字病院、ワシン坂病院

②精神障害者地域活動支援センター

アルク・デイケア・センター、はだしの邑、ほっとスペース関内
百合の樹、ろばの家

③精神障害者グループホーム、ケアホーム

オリーブハイツ、すずらん荘、ベイサイド西之谷、GH見晴

④当事者団体、ボランティア団体等

かもめサポート、花花カフェ、夢のサロン

⑤家族会

家族会みなと会

⑥行政機関

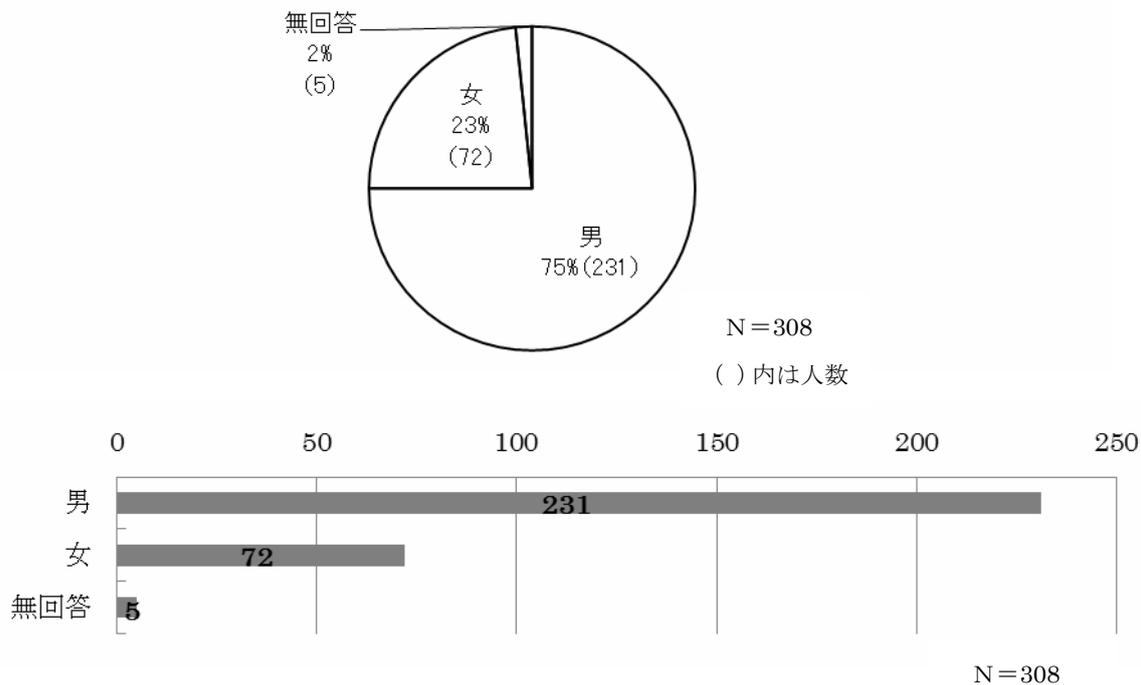
寿福祉プラザ、中福祉保健センター高齢・障害支援課、生活教室かもめ会
中福祉保健センター保護課

II アンケート集計結果

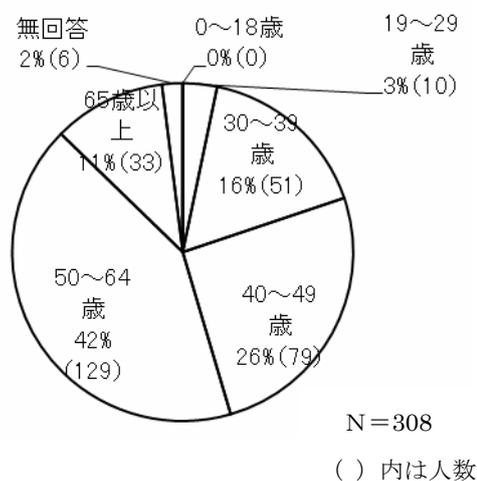
1 当事者アンケート調査

(1) 回答者の属性

① 性別

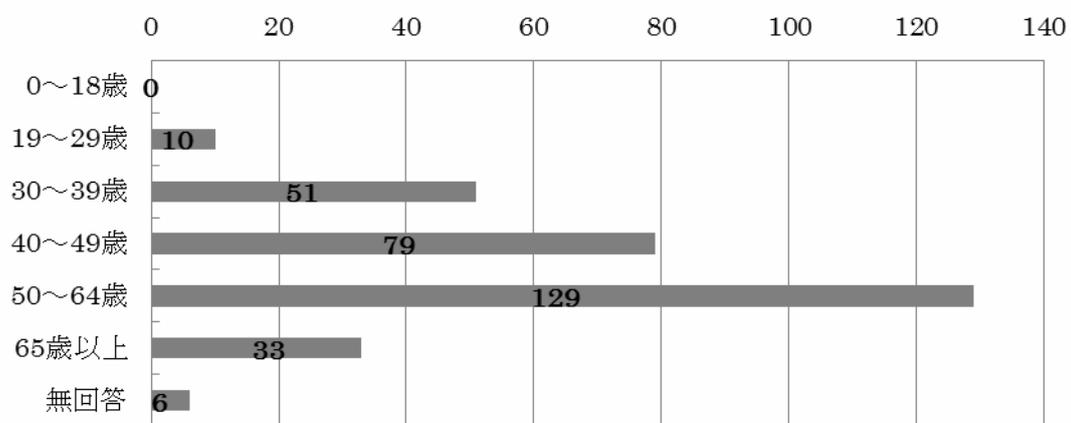


② 年齢

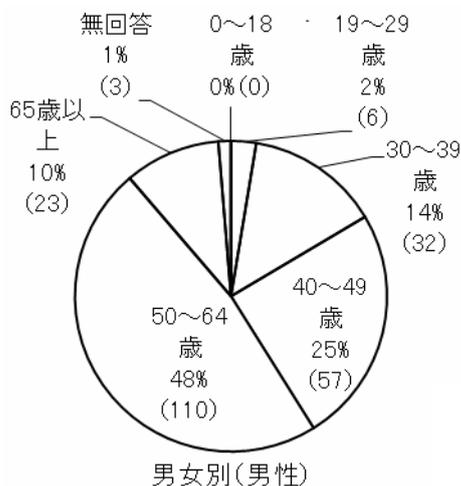


50歳~64歳までの人数が最も多く全体の42%を占めている。次いで40代が26%となっている。

男女別に年齢を見ると女性では50歳以上の人数の全体に占める割合は39%であるのに対し、男性では58%である。

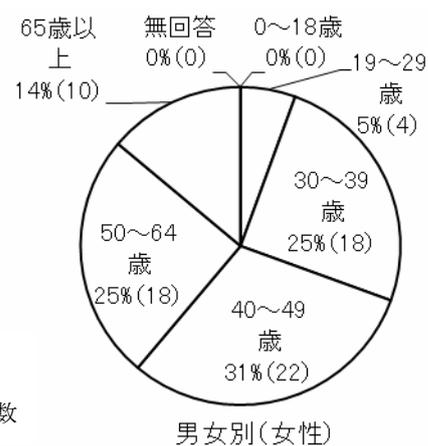


N=308



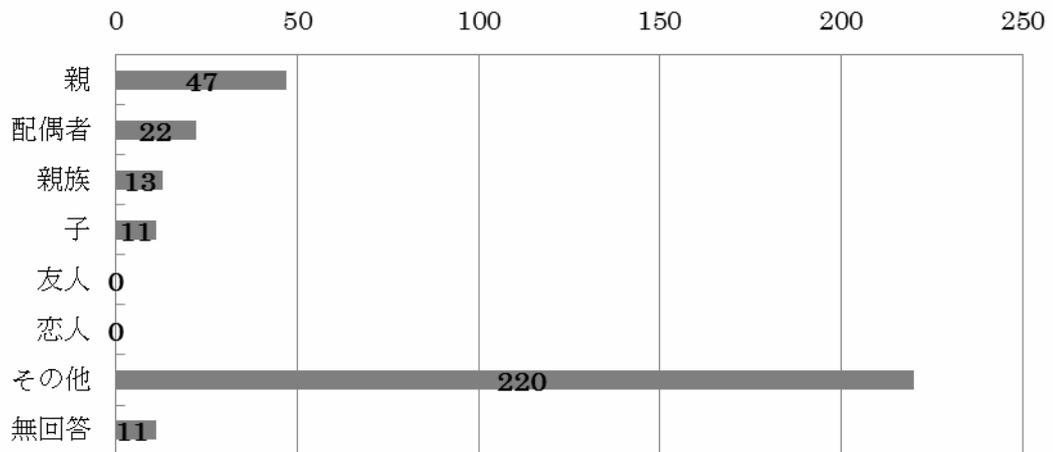
N=308

()内は人数



③ 一緒に暮らしている人

最も多いのは「その他」で 220 人となっている。「その他」の内訳は 1人暮らし、施設入所、グループホームである。次いで「親」が 47 人、3 番目に「配偶者」が 22 人となっており、単身世帯の人数が圧倒的に多い状況である。

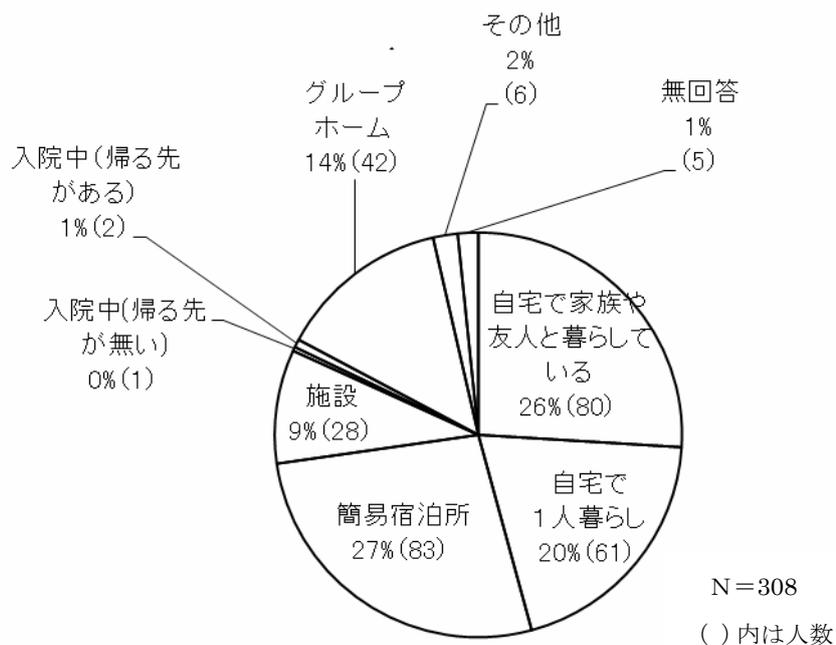


N=308

④ 住まいの形態

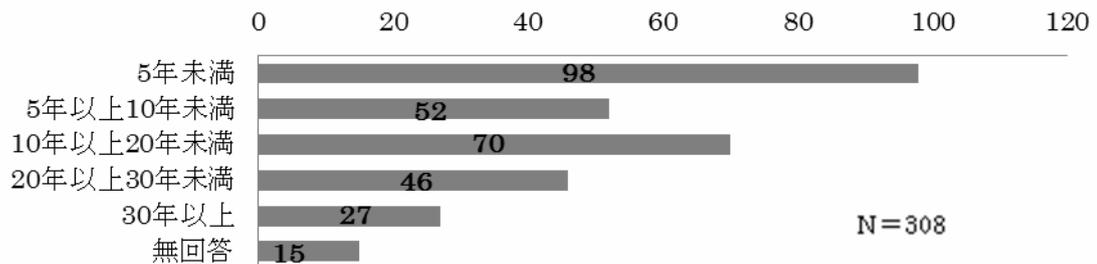
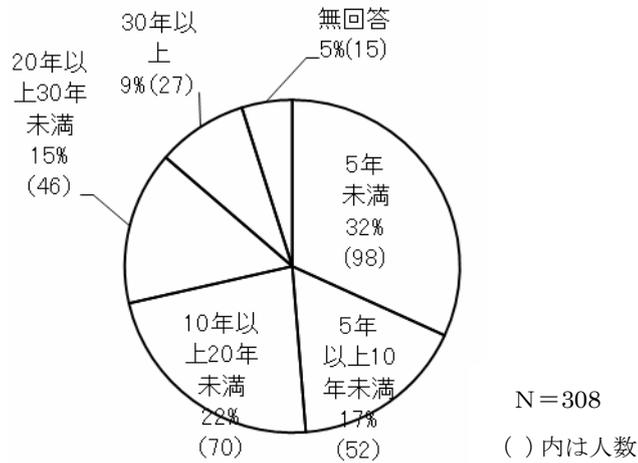
「簡易宿泊所」が27%で最も多く、次いで「自宅で家族や友人と暮らしている」が26%、3番目に「自宅で1人暮らし」が20%となっている。

自宅（持家または賃貸住宅）で暮らしている人は全体の46%となっている。

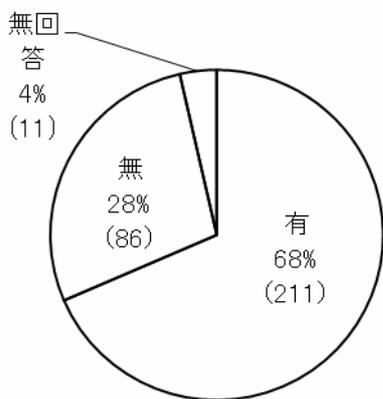


(2) 精神科等の治療について

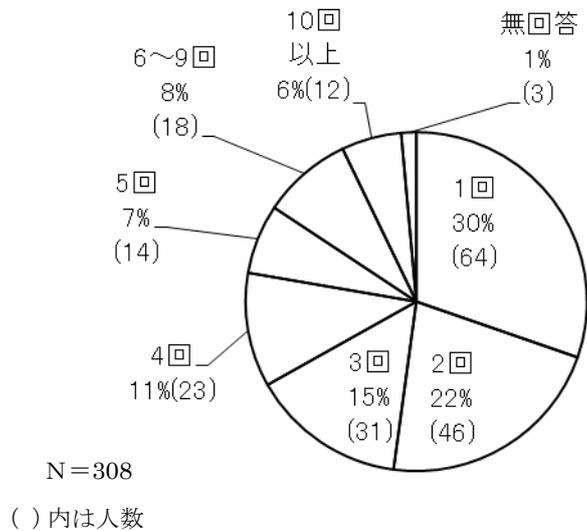
① 初めて精神科・神経科・心療内科等を受診してから経過した年数



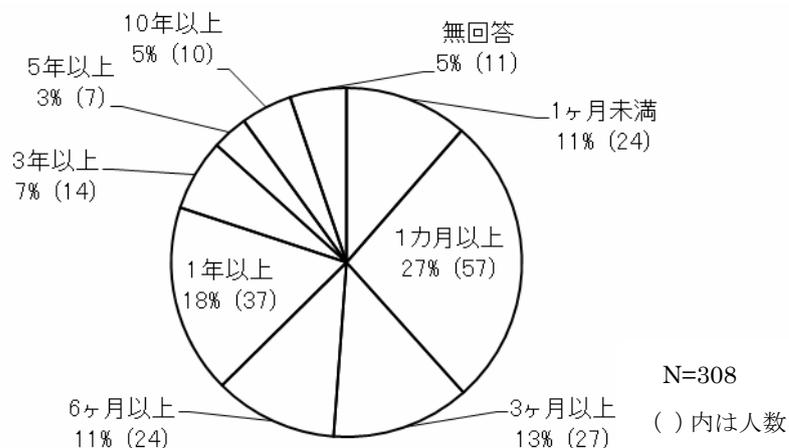
② 入院経験の有無



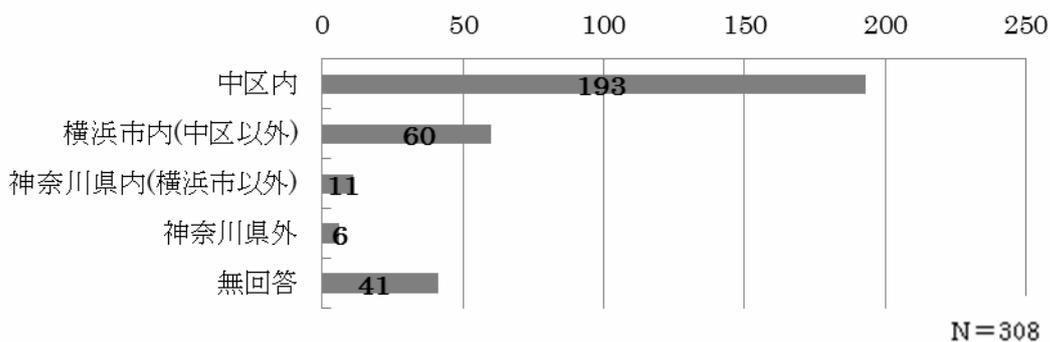
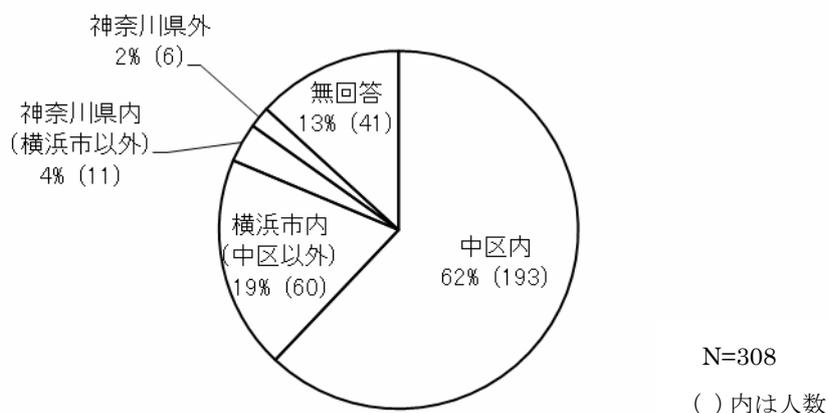
③ 入院回数



④ 入院期間



⑤ 現在通院・入院している医療機関の場所



⑥ 現在、入院中の方の退院希望 (現在入院中の方のみ回答)

あり 3人 なし 1人 調査回答数 4件のみ

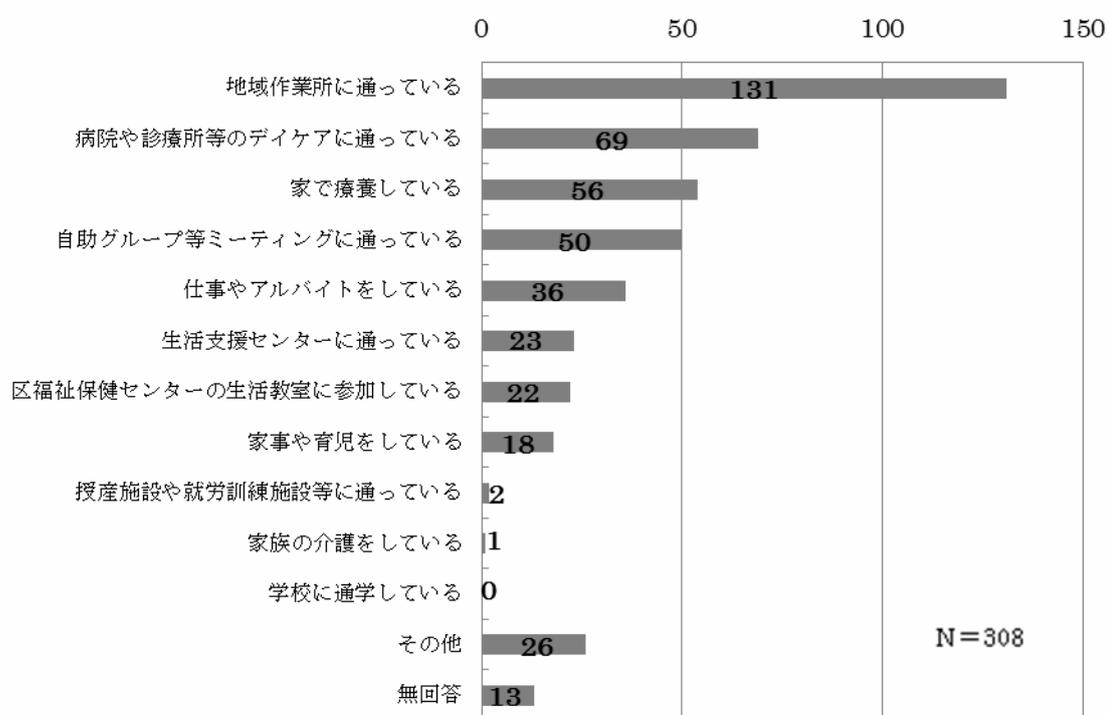
退院したいができない理由 (現在入院中の方のみ回答)

・家族や協力者がいるが反対している 1人 ・戻る場所がない 1人 ・病気が回復していない 1人

※有床の病院に協力を依頼し調査を実施したが入院中の方は病状への影響を配慮した結果、回答は4件にとどまった。

(3) 普段の生活について

① 日中の過ごし方（複数回答可）



（「その他」で自由記載のあった回答）

- ・趣味活動、信仰、ボランティア活動、友人と過ごしている、仕事を探している

② 日常生活の満足度

「精神科・神経科等の治療や療養について」は「満足」「大体満足」が 63%、「精神科・神経科等以外の健康管理について」は「満足」「大体満足」が 48%となっている。

「仕事について」は「満足」「大体満足」が 30%に対し「無回答」が 34%と多くなっている。「収入について」は「満足」「大体満足」が 31%、「食事や片付けなど身の回りのことについて」は「満足」「大体満足」57%となっている。

N=308

精神科・神経科等の治療や療養について

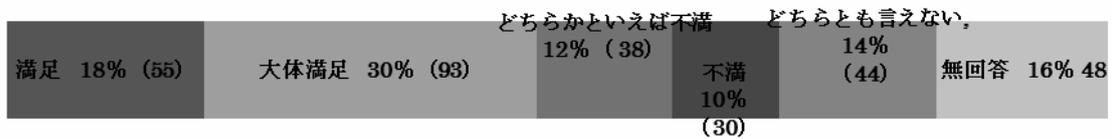
()内は人数



仕事について



精神科・神経科等以外の健康管理について



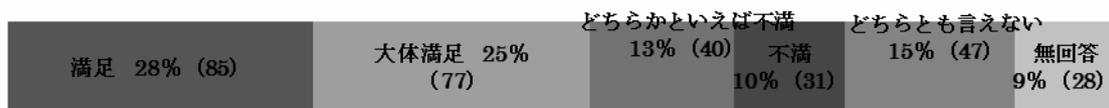
収入について



食事や片付けなど身の回りのことについて



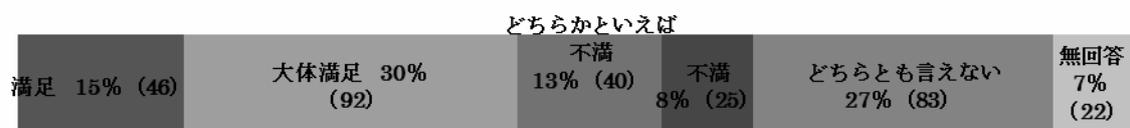
住まいの確保について



趣味いきがいについて

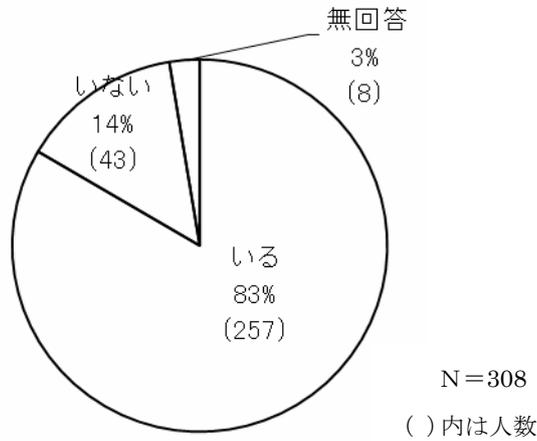


人付き合いについて



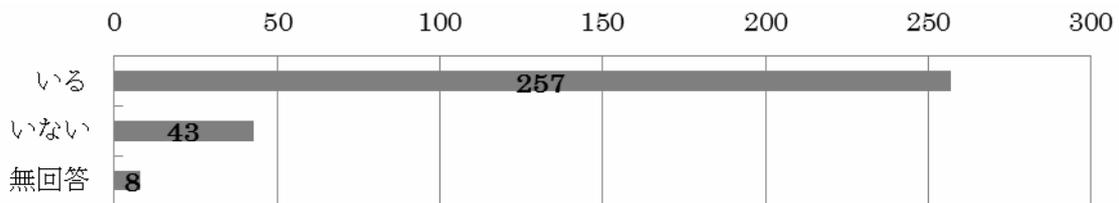
(4) 日常生活の相談について

① 日頃身近に相談できる人の有無



身近に相談相手が「いる」との回答が 83%である。

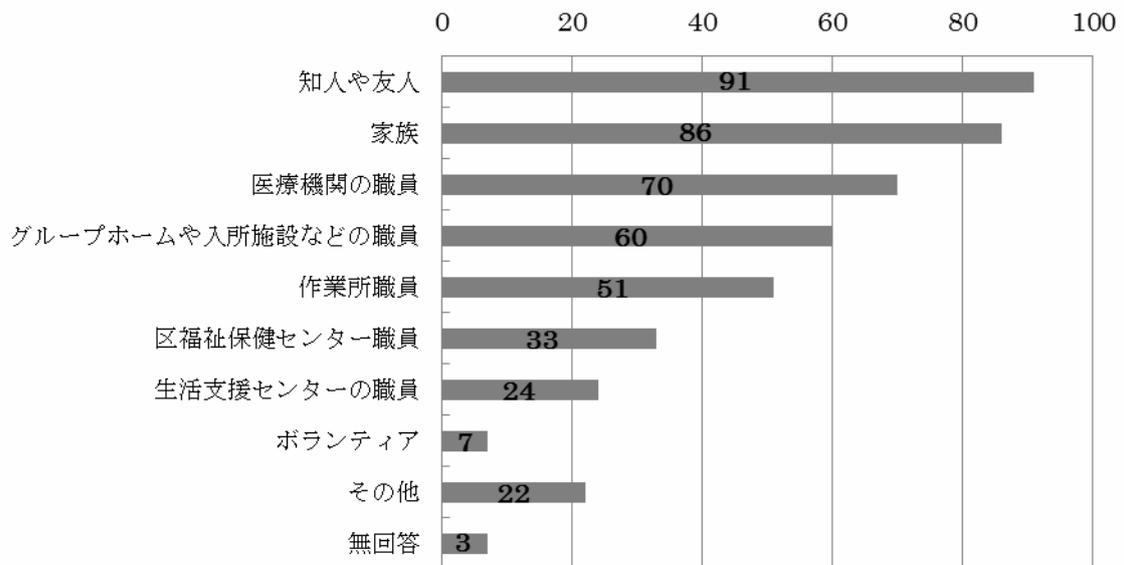
相談相手は「知人・友人」が最も多く 93 人、次いで「家族」87 人、「医療機関職員」72 人となっている。中区は未整備だが他区の「生活支援センターの職員」が 24 人いる状況である。



N=308

② 相談相手

(複数回答可、日頃身近に相談できる人が「いる」と回答された方のみ)



(「その他」で自由記載のあったもの)

N=257

・ホームヘルパー、カウンセラー、インターネット、AAスポンサー、同じ病気の仲間

③ 日常生活の相談の満足度

(日頃身近に相談できる人が「いる」と回答された方のみ)

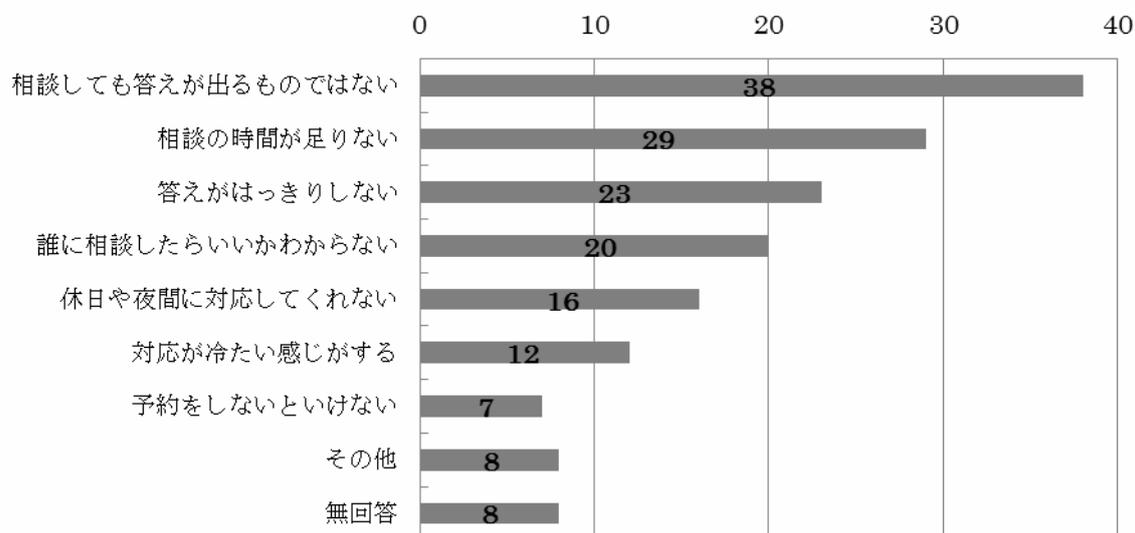
N = 257

()内は人数



④ 不満の理由 (複数回答あり)

(日常生活の相談の満足度「やや不満、不満、どちらとも言えない」と回答された方のみ)



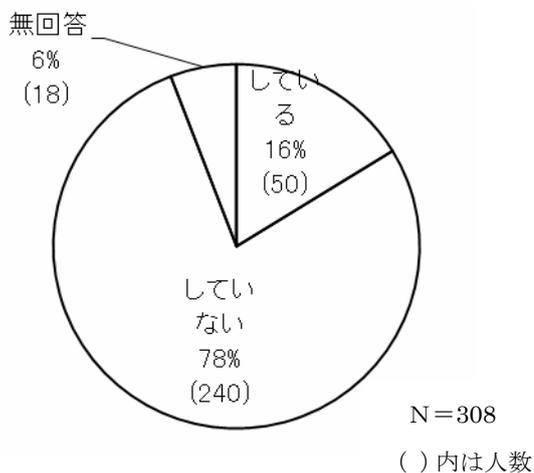
N = 86

(「その他」で自由記載のあったもの)

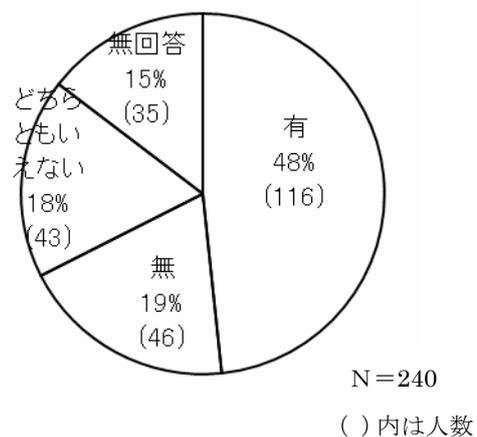
- ・相談することに不安 (不利益があるのではないかなど) がある
- ・相談しても一般的なことしか答えてもらえない気がする
- ・愚痴を言う感じになってしまう

(5) 仕事について

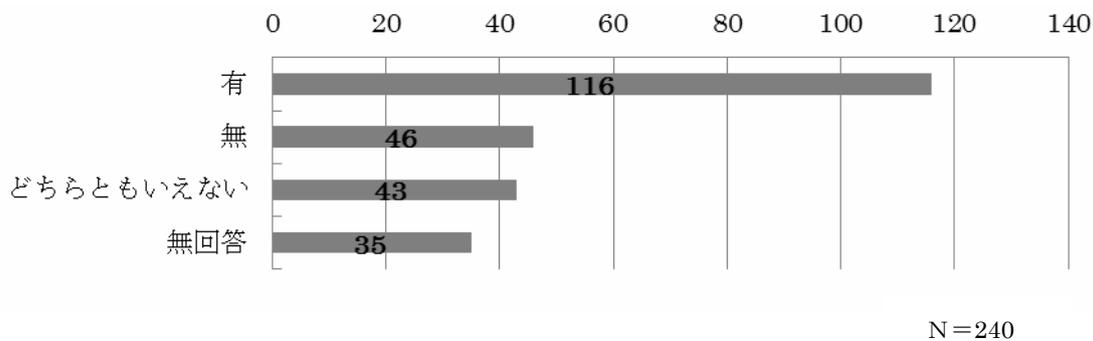
① 一般就労やアルバイトの有無



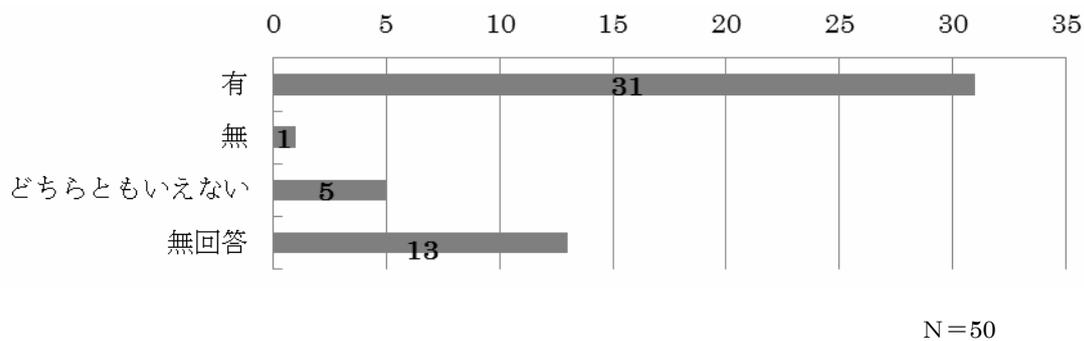
② 就労意向 (現在就労していない方のみ回答)



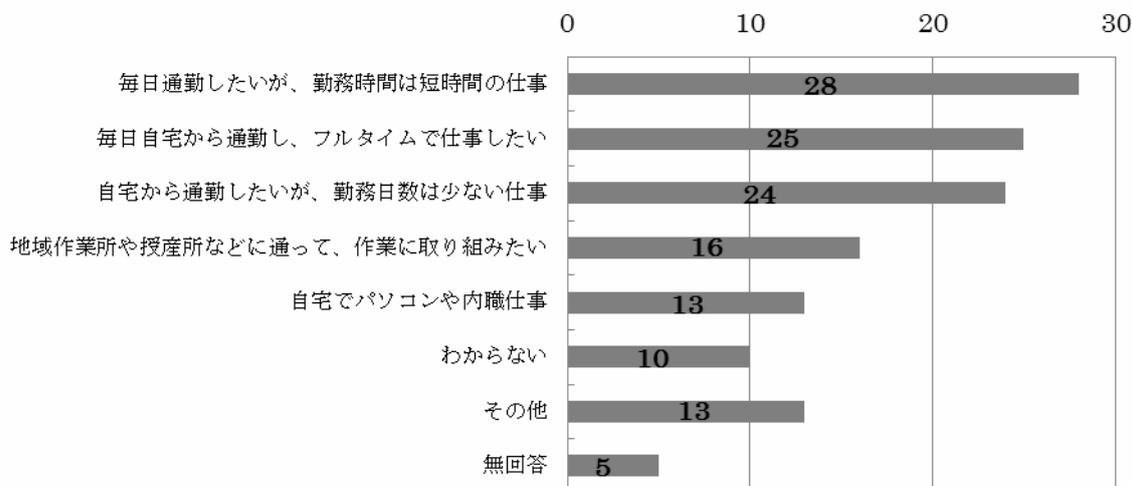
《就労意向 (現在就労していない方のみ回答)》



③ 就労継続意向 (現在就労している方のみ回答)



④ どのような仕事に就きたいか（現在未就労で就労希望者のみ回答。複数回答あり）

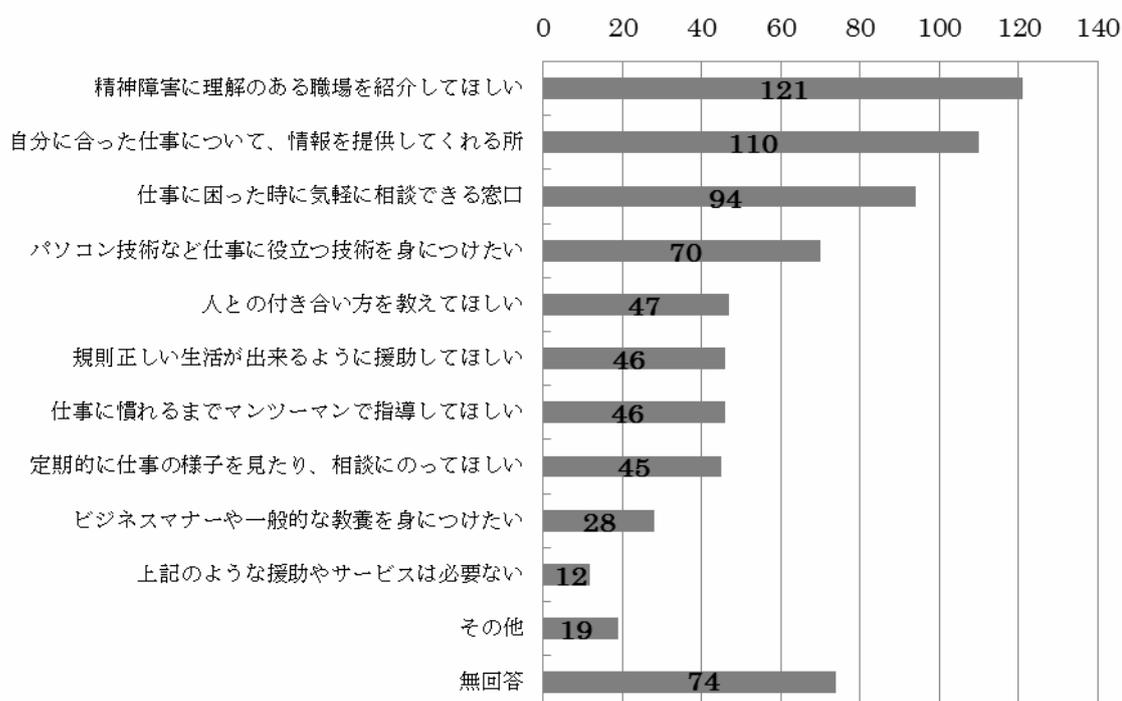


（「その他」で自由記載のあったもの）

N = 116

- ・ ボランティアか短時間のアルバイトを希望している
- ・ 住み込み就労がしたい
- ・ 調理等の仕事がしたい
- ・ 自分で店を開きたい
- ・ 地味な仕事（裏方の仕事）で家から近い所で働きたい。
- ・ 資格を生かした仕事に就きたい

⑤ 仕事をするには、どのような支援があったら良いか（複数回答可）



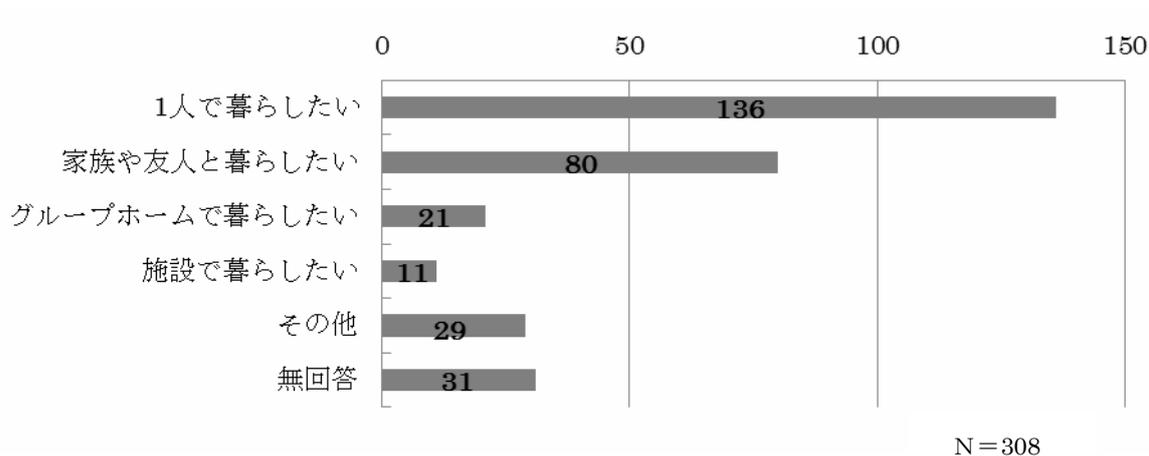
N = 308

(「その他」で自由記載のあったもの)

- ・選択肢に書いてある事は、皆必要と思う。しかし、本当に必要なのは、精神や気分に障害があったとしても、普通に付き合ってくれる人材なのだろうと思う。どういう窓口を設けても、心のこもらない人をあてはめればぶちこわしだろうし、逆に何の機関をつくらなくても、心を込めて普通に受け止めてくれる人が多くいれば多少の障害があっても、安心して暮らせる、働ける社会になっていくと思う。行政でも、企業でもそういう人材づくりをまずお願いしたい。少し変わっているけれど、ちゃんと暮らせる、働けると思える社会であって欲しいと思う。
- ・精神障害者が中心の単純作業でよいので、一般社会に復帰するまでのリハビリ、訓練的な場所があればよいと思う
- ・現在ある技術のスキルアップを援助して欲しい

(6) 今後の生活について

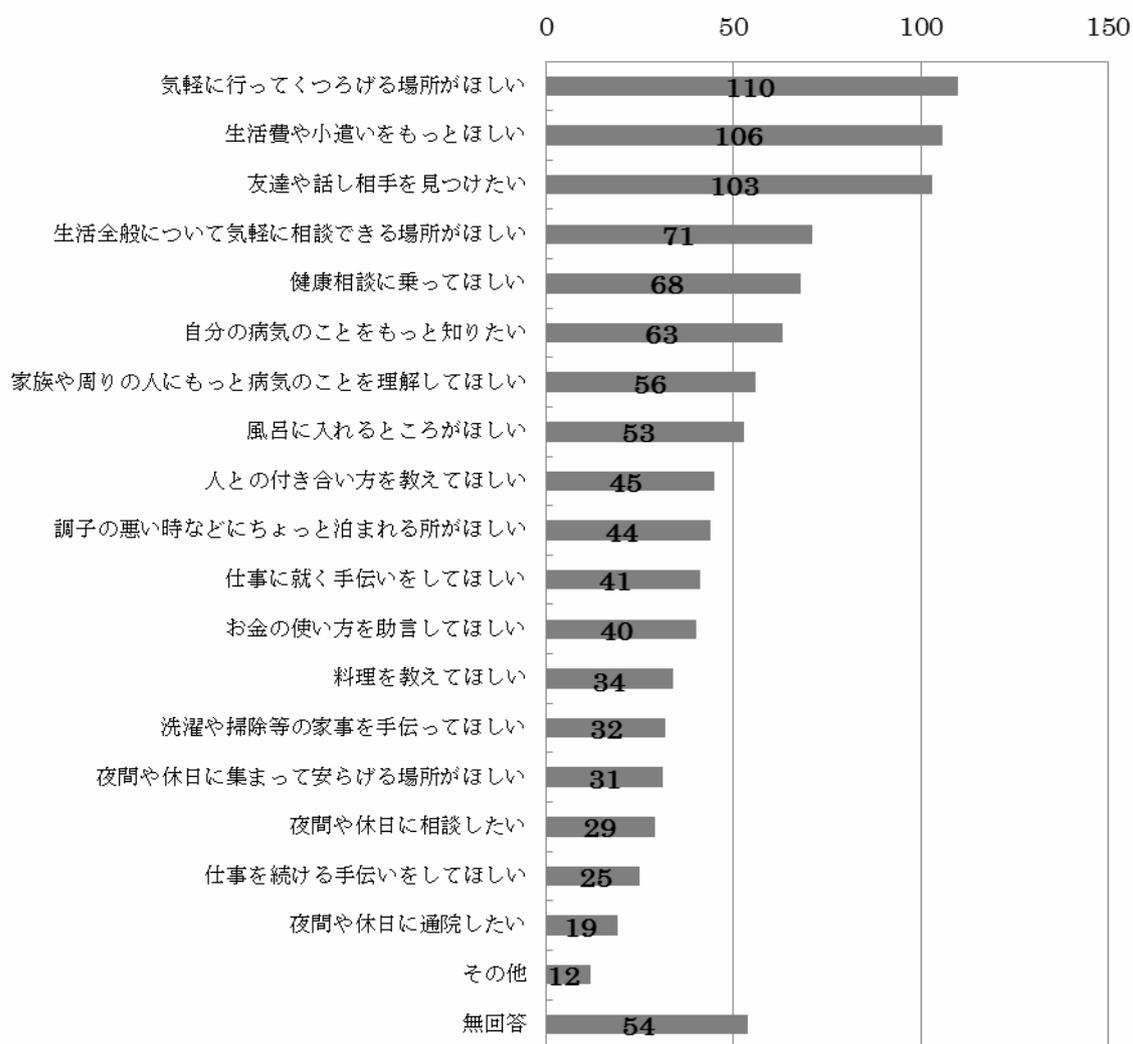
① 将来誰と暮らしたいか



(「その他」で自由記載のあったもの)

- ・結婚して家族をもうけたい
- ・今のところ誰と暮らすかはわからない
- ・今のままで良い
- ・老人ホームで仲間と暮らしたい
- ・田舎で、動物と暮らしたい

② 生活するのにあったら良い支援は何か (複数回答可)



N=308

(「その他」で自由記載のあったもの)

- ・体力向上を図れる機会を得られる支援

③ 今後やってみたいこと (自由記述)

大分類	小分類	記述数
生活	今後の暮らし方	14
	結婚	13
	環境の改善	8
	健康維持	4
	経済面での安定	2
	生活の自立	2
	食事の充実	2
就職	仕事内容	36
	資格取得・技術習得	8
活動	趣味を続けたい	10
	趣味を見つけたい	7
	ボランティア・社会貢献	5
交友関係	友人との付き合い	5
	異性との付き合い	3
その他	その他	30

2 家族・支援者アンケート調査

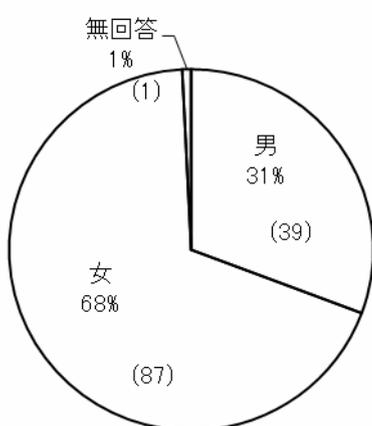
(1) 回答者の属性

性別は女性が男性2倍以上となっている。

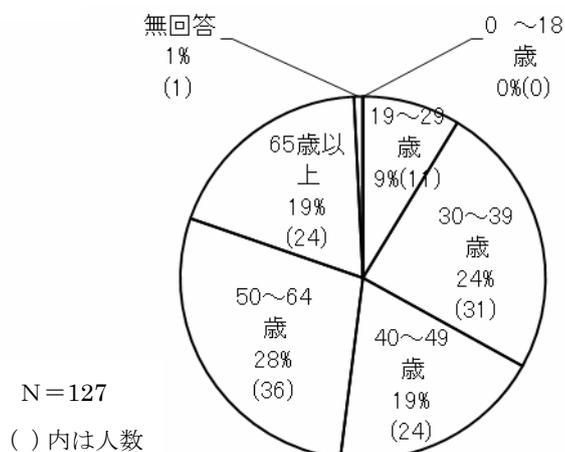
年齢は「50～64歳」が最も多く28%、次いで「30～39歳」24%、「40～49歳」19%となっている。

当事者との関係は支援者が100人で家族が20人、無回答7人となっている。

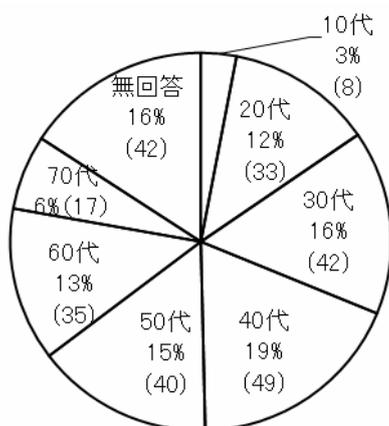
① 性別



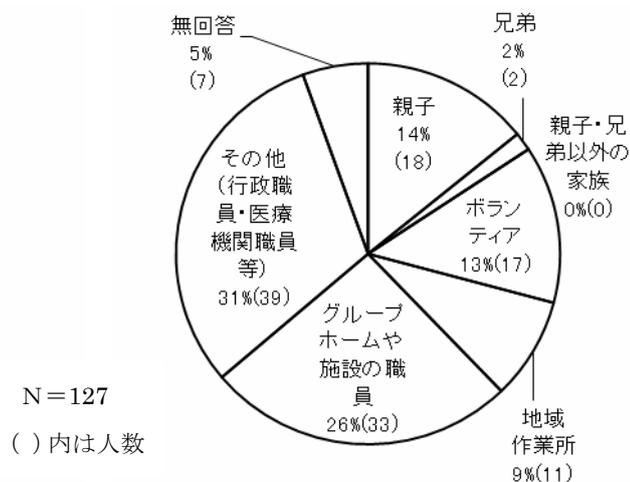
② 年齢



③ 当事者の年齢は（複数年代有）



④ 当事者との関係



（「その他」で自由記載のあったもの）

行政職員・地域活動支援センター・医療機関職員

(2) 当事者の方の普段の生活について

① 当事者の方の生活について家族・支援者はどのように感じているか

N=127

()内は人数

・精神科・神経科等の治療や療養について

満足 2% (2)	大体満足 27% (35)	どちらかという と不満27% (34)	不満 7% (9)	どちらともいえない, 24% (31)	無回答 13% (16)
--------------	------------------	------------------------	--------------	------------------------	-----------------

・精神科・神経科等以外の健康管理について

満足 2% (3)	大体満足 21% (27)	どちらかという と不満29% (37)	不満 8% (10)	どちらともいえない, 25% (31)	無回答 15% (19)
--------------	------------------	------------------------	---------------	------------------------	-----------------

・当事者の仕事について

満足 2% (3)	大体満足 15% (19)	どちらかという と不満20%(26)	不満 17%(21)	どちらともいえない, 35%(44)	無回答 11%(14)
--------------	------------------	-----------------------	---------------	-----------------------	----------------

・当事者の収入について

満足 1% (1)	大体満足 12%(16)	どちらかという と不満21%(27)	不満, 18%(23)	どちらともいえない, 35%(44)	無回答 13%(16)
--------------	-----------------	-----------------------	----------------	-----------------------	----------------

・当事者の食事や片付けなど身の回りのことについて

満足 3% (4)	大体満足 27%(34)	どちらかという と不満24%(31)	不満 9% (11)	どちらともいえない, 23% (29)	無回答 14% (18)
--------------	-----------------	-----------------------	---------------	------------------------	-----------------

・住まいの確保について

満足 6% (7)	大体満足 20%(26)	どちらかという と不満24%(31)	不満 12% (15)	どちらともいえない, 25% (32)	無回答 13% (16)
--------------	-----------------	-----------------------	----------------	------------------------	-----------------

・趣味やいきがいについて

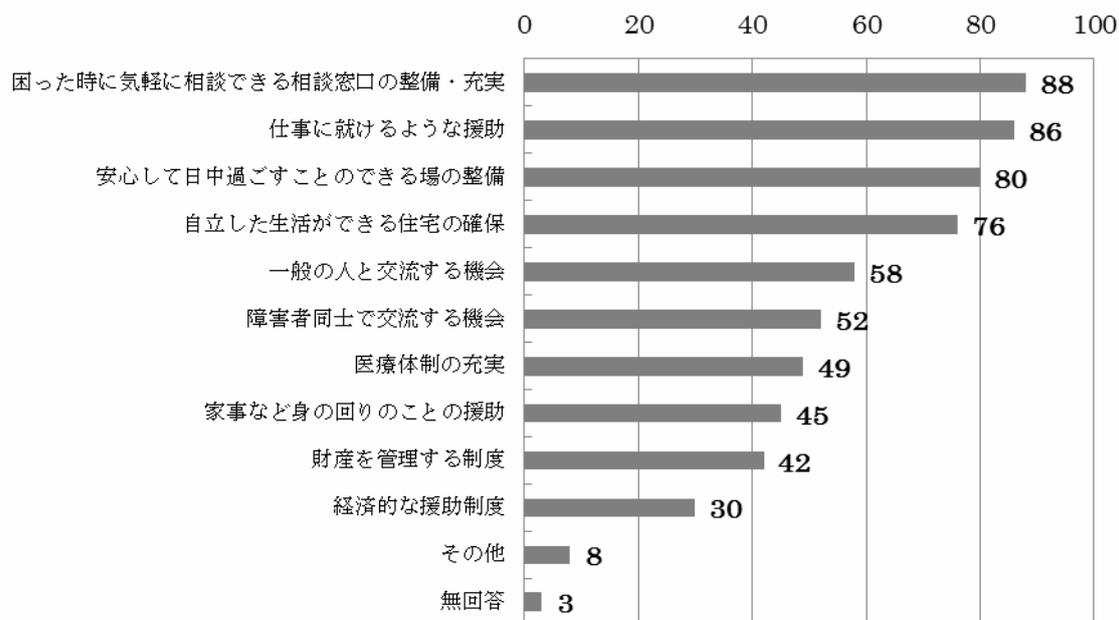
満足 1% (1)	大体満足 15% (19)	どちらかという と不満28%(36)	不満 17% (21)	どちらともいえない, 28% (36)	無回答 11% (14)
--------------	------------------	-----------------------	----------------	------------------------	-----------------

・当事者の人付き合いについて

満足 1% (1)	大体満足, 19% (24)	どちらかという と不満23%(29)	不満 17% (22)	どちらともいえない, 30% (38)	無回答 10% (13)
--------------	-------------------	-----------------------	----------------	------------------------	-----------------

(3) 当事者に必要な支援について

① 当事者のためにどのような支援があったらよいか（複数回答可）



N = 127

（「その他」で自由記載のあったもの）

- ・ 民事的なトラブルの前段階のようなところで相談できる場所
- ・ 当事者が外国人のため医師や支援者との基本的なコミュニケーションが難しい
- ・ 栄養指導と運動を促進してくれる場所
- ・ 障害者のスポーツクラブ
- ・ 当事者が自らの病気の回復の体験をいかした仕事（例えば：当事者スタッフ、ピアスタッフなど）ができる場所があれば良い

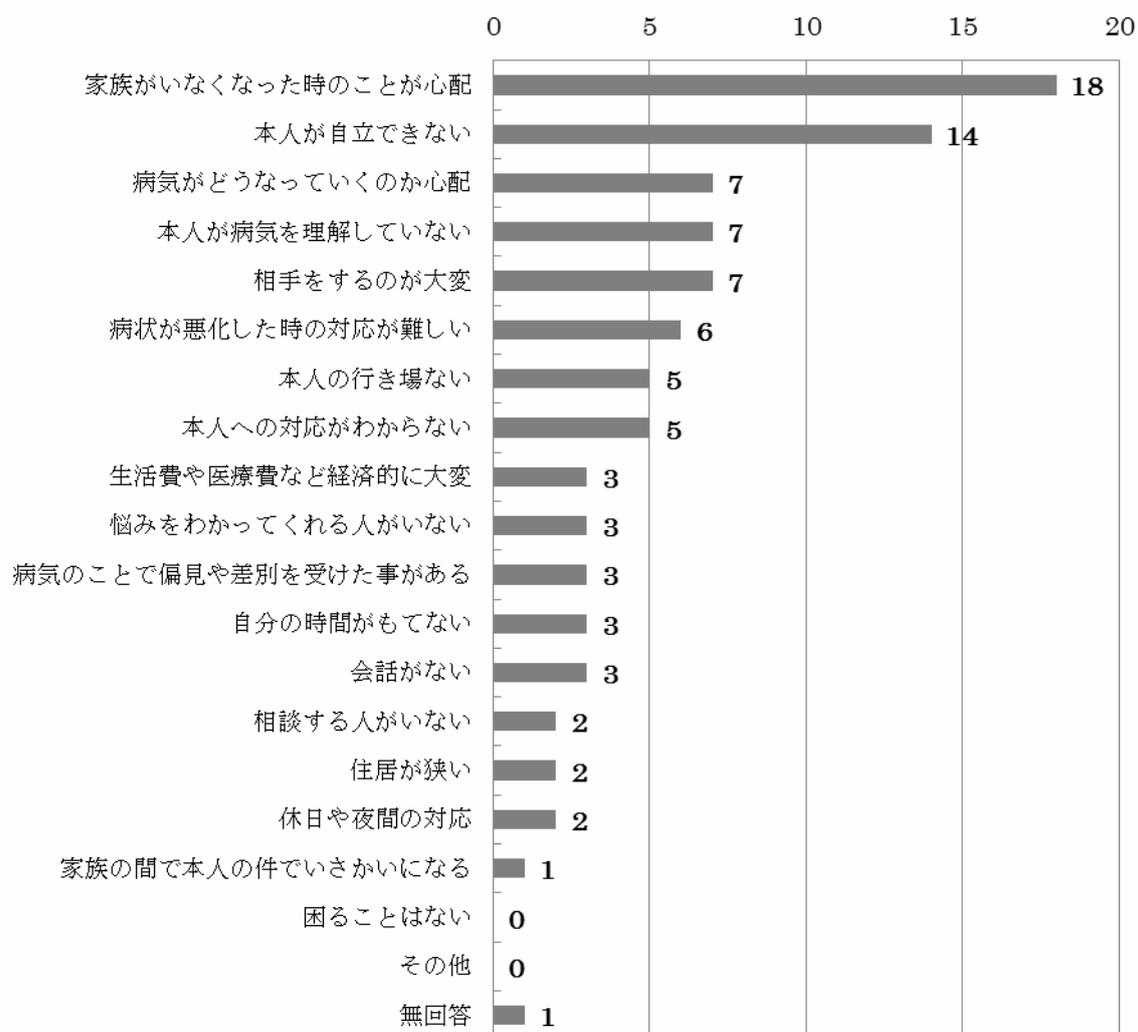
(4) 家族の意識とニーズ

「①当事者との生活で困っていること」は「家族がいなくなった時のことが心配」が 18 人、「本人が自立できない」14 人と特に多い。また「病気がどうなっていくか心配」「本人が病気を理解していない」が 7 人おり病気に関する困りごとが次いで多い。

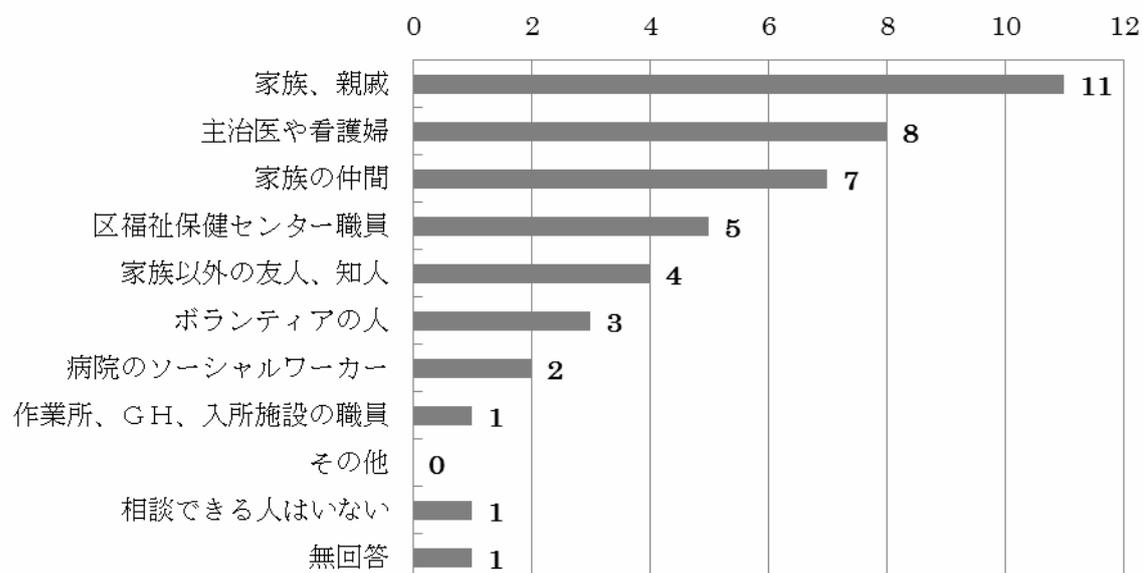
「②相談相手」は「家族、親戚」が 11 人で最も多く、次いで「主治医や看護婦」が 8 人、「家族の仲間」が 7 人となっている。

「③相談相手の満足度」は「満足」が 16%「だいたい満足」が 53%である。

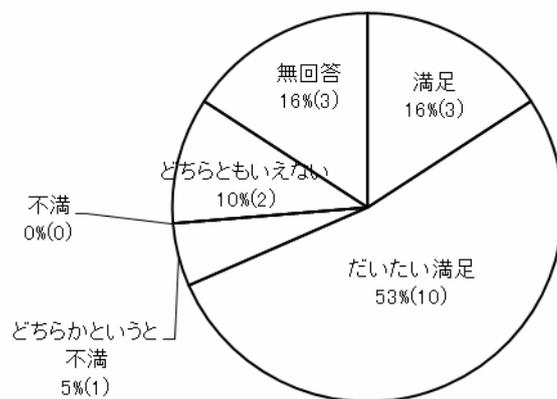
① 当事者との生活で困っていること（家族の方のみ回答、複数回答可）



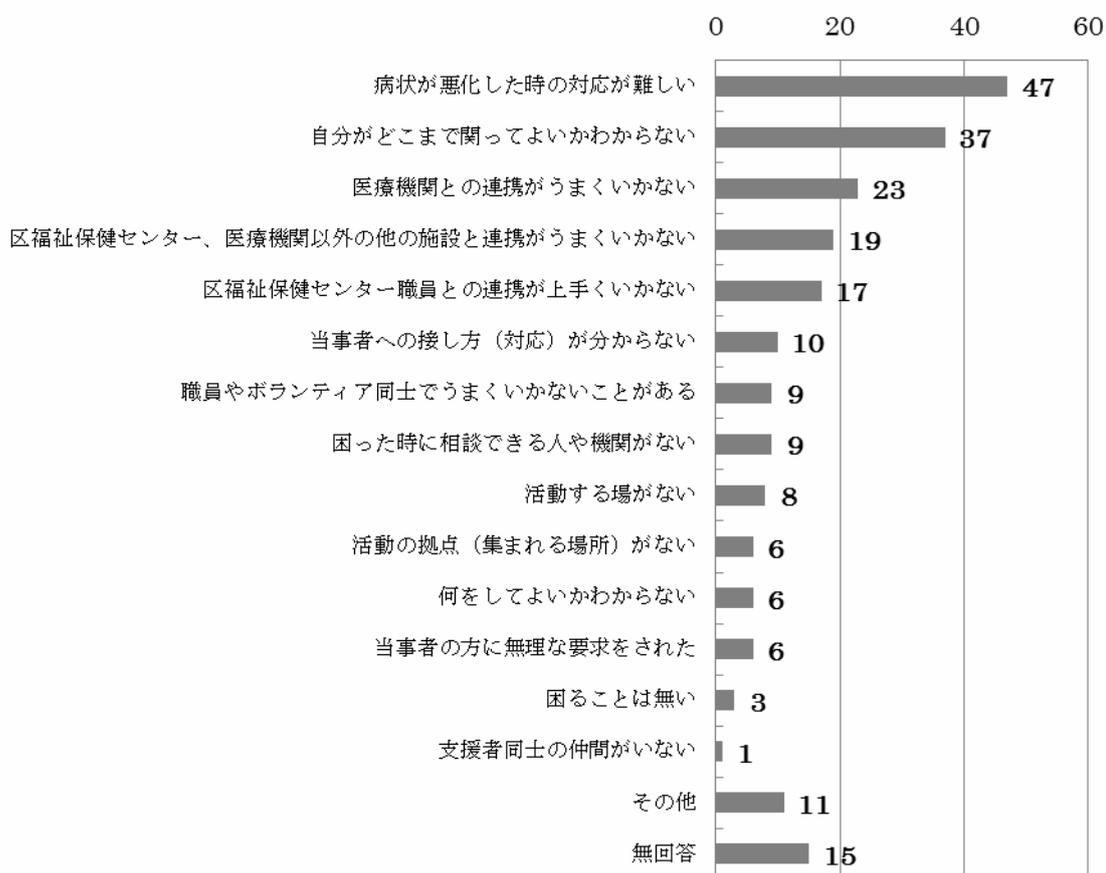
② 相談相手（家族の方のみ回答、複数回答可）



③ 相談相手の満足度（家族の方のみ回答、複数回答可）



(5) 支援者が当事者と接していて困ること (支援者の方のみ回答、複数回答可)



(「その他」で自由記載のあったもの)

- ・ 単身者のネットワークづくり、身体合併症への対応に困る
- ・ 制度の利用方法がわかりづらい
- ・ 支援者の疲労
- ・ 施設の理想の在り方がわからない、どういう施設がよいのか、どこを目標にしてよいか
わからない
- ・ ボランティアのマンパワー不足
- ・ 活動の拠点（集まれる場所）はあるが、もっと広い部屋が数多くほしい
- ・ 医療機関の医師が忙しすぎる、ケアワーカーも同様である
- ・ 自分一人で支えているようで苦しくなる
- ・ 受療意思の低い方の服薬管理や受療援助が難しい

(6) 今後どのような精神障害者福祉保健サービスが重要と思うか (自由記述)

大分類	小分類	記述数
制度施策	施設等の充実	9
	相談支援	3
	地域移行支援	2
	介護サービス	2
	ボランティア活動支援	2
	受診受療の支援	1
	金銭管理の支援	1
連携やネットワーク	地域関係機関の連携	4
	ケアマネジメント機能	2
医療	救急医療体制	2
	医療内容の充実	2
	身体疾患への医療対応	1
障害の理解	普及啓発	8
	地域交流	3
	家族への働きかけ	2
その他	体の運動プログラム	2
	ピアサポートの育成	1
	働く場の提供	1
	活動資金収集	1
	将来への不安解消	1
	その他	4

Ⅲ 中区での生活支援センターの方向性について

これまでの検討経過

中区では地域関係機関・団体が精神障害を持つ方や家族が安心して暮らせる地域を目指し、「病気や障害への理解を深め」「必要な地域支援とは何かを、当事者と共に考える」活動をすすめてきました。

このような中で、「より身近で、休日夜間に対応する相談機能」「地域社会資源をより効果的につなげていくネットワーク・連携機能」「毎日の生活を支援する衣・食・住に関するサービス提供機能」を持ち、精神障害者の在宅生活を支援する基盤となる生活支援センターの設置が強く求められていました。

平成 17 年 5 月の中区精神保健福祉地域関係機関連絡会において、家族会、作業所を運営する市民団体、ボランティアグループからの呼びかけがあり、「中区精神障がい者の地域生活支援を考える会」(以下「考える会」)が発足しました。「考える会」は区内の当事者、福祉施設(作業所・グループホームなど)、市民グループ、ボランティア、医療機関、行政機関で構成され延べ 345 人の参加者で 12 回(平成 17 年 7 月～平成 18 年 10 月)開催されました。その中で「中区らしい拠点づくり」「中区に必要な地域生活支援とは何か」が検討されました。

また「考える会」で出された課題は、「3 障害一体サービス提供施設」機能検討プロジェクト(平成 17 年 11 月から平成 19 年 12 月まで計 16 回開催)に引き継がれ、中区での生活支援センターの機能と地域活動ホームと生活支援センターの連携について検討がされました。

孤立を防ぐ身近な相談機能

当事者アンケートの「日常生活の相談について」では「日頃身近に相談できる人がいない」と 308 人のうち 43 人が回答しており、単身世帯が多い中区の当事者に対し既存の相談支援機関や地域社会資源では対応しきれていない状況が明らかになっています。また「身近に相談者がいる」と回答した 257 人のうち 24 人が他区的生活支援センター職員を相談相手であると回答しています。家族・支援者アンケートでは「当事者に必要な支援は何か」で「困った時に気軽に相談できる相談窓口の整備・充実」が最も多く 127 人のうち 88 人回答しており、今後中区での生活支援センターの生活相談に対するニーズが確認できます。

相談の内容としては当事者アンケートの「生活するのにあったら良い支援は何か」の

質問に対し「生活全般について気軽に相談できる場所がほしい」「健康相談に乗ってほしい」が上位にあり、生活全般で困った時のちょっとした相談や当事者自身の健康に関する相談ができることが期待されています。また精神保健福祉に関する制度施策や地域社会資源、専門の相談窓口が増えてきており、地域で暮らす当事者が増え続けている現状では当事者ひとひとりに合った地域社会資源や制度施策、相談窓口を情報提供したり、その活用を支援していくためのソーシャルワークやケアマネジメントが身近な生活相談の場面に必要になっています。この他にも当事者や家族が病気のことや健康についての相談したいとの希望もあるため精神科医師などによる専門相談も必要になっています。

当事者の社会参加に向けた拠点としての活動

当事者アンケートの「生活するのにあったら良い支援は何か」の質問では「気軽に行ってくつろげるところがほしい」が最も多く、308人のうち110人が回答しています。また「友人や話し相手を見つけない」と308人のうち103人が回答しており、3番目に多い状況になっています。「日常生活の相談について」では「日頃身近に相談できる人がいる」と回答した257人のうち91人が相談相手は「知人・友人」との回答しており1番多い状況です。このことから当事者の身近な相談相手には知人・友人がなっていることが多く、友人や話し相手を作る機会を得たいというニーズが明らかになっています。「日常生活の満足度」では「趣味いきがいについて」、「人付き合いについて」が「満足・大体満足」の回答が45%と半数以下になっています。

家族・支援者アンケートでは「当事者に必要な支援について」で「安心して日中過ごすことのできる場の整備」が127人のうち80人が整備を希望しています。「当事者の方の普段の生活について」で「趣味いきがいについて」は「満足・大体満足」の回答が26%と低く、「人付き合いについて」は「満足・大体満足」の回答が20%とさらに低くなっています。

これらのことから「気軽にくつろげる場所」としての機能のほか、「仲間づくりの場所」としての機能も期待されており、当事者の趣味やいきがいを見つけるための機会となるようなプログラムやサークル、イベント、ピアサポートなどのメニューを多く持つことで、当事者同士の交流が促進されるような機能が求められています。

生活を立て直すための支援

中区は一人暮らしの当事者の数が多い状況です。「生活するのにあったら良い支援はなにか」で「風呂に入れるところがほしい」が 53 人回答しています。生活する上での基本となる「衣・食・住」に対する支援は地域で生活する精神障害者の自立生活を支援する重要な機能であり、食事サービス、入浴サービス、洗濯機の利用サービスの充実が期待されています。

家族・支援者の活動への支援

当事者アンケートの「生活するのにあったら良い支援は何か」では「家族や周りの人にもっと病気のことを理解してほしい」が 308 人のうち 56 人が回答しており、当事者が自身の病気を家族に理解してもらっていないと感じています。

家族・支援者アンケートの「当事者との生活で困っていること」では「家族がいなくなった時のことが心配」「本人が自立できない」「病気がどうなっていくのか心配」「本人が病気を理解していない」など多くの困りごとを抱えています。

そのため相談窓口や交流、情報交換の場、当事者の病気の理解を深めるための学習会など家族・支援者の活動への支援が行われることが必要になっています。

地域交流・普及啓発の促進・地域関係機関のネットワーク強化

アンケートの自由記載にも書かれているとおり、まだまだ精神障害に関する社会の理解は十分に広まっておらず、誤った知識や偏見が残っている状況です。地域で暮らす当事者が増えてきている中で地域社会の精神障害の理解を広めていく必要があります。普及啓発の方法として講演会等の開催し理解を広めていくことの他に地域社会や地域に暮らす人達との交流が重要になっています。そのため地域関係機関と共同して地域に開かれたイベントの開催やボランティア講習会、地域の人達と交流していく機会の提供を積極的に図っていく必要があります。

また地域社会での当事者の生活を支えていくために地域関係機関同士のネットワークの強化とともに地域関係機関と医療機関の連携を図っていくことが今後も継続して必要になっています。

住み慣れた地域で暮らしていくための支援

中区内には精神科有床病院「みなと赤十字病院 50 床」「ワシン坂病院 196 床」があります。精神障害者の地域移行が進められている中で今後はより一層地域と病院間での調整が必要になってきています。そのため入院されている精神障害者や病院に対し地域社会資源の情報提供やサービス利用援助、退院に向けた普及啓発等の支援が求められています。入院が長期化している精神障害者の中には親族が高齢者で具体的な援助ができないことや住む場所の確保、日常生活に必要な手続きを自身で行うことが難しいことにより退院を阻害している状況があります。こうした方々への支援として「横浜市精神障害者退院促進支援事業」があり、今後中区生活支援センターでは自立支援員の活躍が期待されています。

また 1 人暮らしであったり、家族による支援が困難な精神障害者で生活支援が必要な方に対して自立支援アシスタントの支援により安心して地域で暮らしていける支援が必要な状況です。これまで中区には自立生活アシスタントが配置されていなかったため他区への依頼により利用がされていました。今後は中区生活支援センターに自立生活アシスタントが配置されることで地域の社会資源と密着した生活支援が期待されています。

IV 資料

当事者アンケート「今後やってみたいこと」(自由記述)の回答内容

※ 基本的には回答していただいた文章を原文どおり記載しておりますが個人が特定されるおそれのあるものや内容が重複するものは一部を修正・集約しています。

仕事や就労に関すること

- ・短時間のアルバイトをしたい。
- ・仕事をしたいと思っています。
- ・自助グループを終了して短時間の仕事をして、一人で暮らしたい。
- ・一般就労にむけての資格取得の活動。
- ・仕事について、のんびり暮らしたい。
- ・仕事で使える免許が取りたい(大型・小型・特殊など)
- ・フルタイムの仕事。
- ・少しの時間仕事をしたい。
- ・人からいろいろ言われず、畑仕事などしていたい。
- ・以前、出来ていた仕事を、以前の様にできる様にしたい。
- ・無理をしない程度に、長く続けて勤務の出来るパートの仕事に就ければと思います。

生活に関すること

- ・ドヤは、治安が悪いので、もっと治安のいいところで生活したい。
- ・女性専用のコインシャワーがある簡易宿泊所に住みたい。
- ・一人でのんびりした生活がしたい。
- ・動物と暮らしたい
- ・生活保護が欲しい
- ・結婚して家庭を築きたい
- ・一人で暮らしたい
- ・生きていてよかったという生活環境の中で生活したい
- ・自分がこれからも真面目にやって、これから、後から来る仲間に対して少しでも力になれるようにやっていきたい
- ・悔いのない人生を送りたい
- ・いつも、だらしないので片付けるのが、早くきちんとしたい
- ・家に住みたい
- ・グループホーム入居希望
- ・もう、一緒に親が年金生活なので、死んだらどうするのかの話で、苦しいことがありました。生活レベルの収入が欲しい
- ・いろいろ趣味が合ってよい。友人がいればよい。毎日、整理整頓できて、掃除機がかけられればよい。病気が治れば、それ以後、生活していきたい
- ・子供と一緒に住みたい
- ・今後の生活は、娘を普通に育て、幸せな結婚をして欲しい

- ・早くグループホームを退所し、友達や一人で暮らしたい
- ・グループホームをでて、一人暮らしをしたい
- ・3食、満足して食べたい
- ・社会的、自立（少し大げさだけど）、病気（投薬・外来・入院）等を受けながらも並行しながら年を重ねていきたい

趣味に関すること

- ・ボランティアをしたい
- ・無趣味なので、何か楽しめるものをみつけない
- ・何か役に立つ資格が欲しい。昔のように、本や小説を読んだり（現在は集中力がなくて続かないため）小説を書いてみたい
- ・パソコンのスキルの向上
- ・趣味を充実させるのが、大事だと思う
- ・日本中を旅行したい
- ・体力づくり
- ・趣味をもって暮らしたいです
- ・世界的第一人者として社会貢献
- ・世界中旅行して歩いて紀行文を出版したい
- ・月に1～2回スポーツでもして、少しやせたいと思っている
- ・両親のそれぞれの一族の歴史を調べて、パンフレットにして発行したい。未だ読み終わっていない本を出来るだけ多く読破したい

交友関係に関すること

- ・一人では寂しいので、話ができる相手が欲しい
- ・仕事より、交友関係を充実したい
- ・彼と充実したつきあいを続けたい
- ・今の所を引越して、もっとよいところを見つけない。仲の良い親友を作りたい

その他

- ・別にありません
- ・両親に孝行したい
- ・全て、今のままで良い
- ・一人で生きていける力をつけたい
- ・勤め人として、長く働いてきた事で得た知識やノウハウを他の人の役に立てたい
- ・まだ、今後の事を考える余裕がない。漠然とした希望はある
- ・教会に行きたい。今後も続けたい
- ・何もいらず。昔の体に戻るよう
- ・健康な体を維持したい
- ・生活支援センターへの要望として朝、昼食の提供をお願いしたい

家族・支援者アンケート「今後どのような精神障害者福祉保健サービスが重要と思うか」（自由記述）の回答内容

※ 基本的には回答していただいた文章を原文どおり記載しておりますが個人が特定されるおそれのあるものや内容が重複するものは一部を修正・集約しています。

制度施策に関すること

- ・ 精神障害者と一口に言っても、一人一人が異なるのでサービスもパーソナルな観点で考えて欲しい。閉じこもりがちな人には多職種チームによる訪問。居場所づくりも年代別（少なくとも20～30代、40～50才代）にする。
- ・ 困ったときの相談体制。働くための相談、情報提供の体制。グループホームなど安心して住めるところ。ショートステイなど休息の為に数日間泊まれる所。
- ・ 人とまじわる事が出来ない（外に出られない）訪問して相談や話を聞いてくれ専門的な知識人の育成にも行政側の支援だと思います。
- ・ 預金通帳、大きな財産の管理だけではなく、日常生活で必要となる日々の金銭管理を行ってくれるようなサービスがあると、安定した生活が出来、バランスの取れた食生活を継続していけるようになると思います。
- ・ 障害にあわせた対応が必要。会議室、ミーティングルーム、調理実習の場、体操の出来る所（体育館）、簡易図書館などの場所の提供をしてほしい。職員の人員確保、また職員が相談できる支援機関の確保。関係者への地域の中にあるネットワークやボランティア活動などのきめ細かい情報提供をしてほしい。
- ・ 夜間の支援の充実が必要（ショートステイ・病状悪化時、入院までの時間すごせる場所）働く支援、働き続けるための支援としてジョブコーチ派遣事業が必要。
- ・ 中区生活支援センターのニーズはあると思うが、現在予定されている地域は交通の便が余りよくなく、住居地と遠い距離になる。その点を考慮、大きいスペースでA型のようなものより、B型のようなまとまりのあるものの方が利用者、職員の行動に密度があつてよいと思える。まだまだ精神障害者へのサービスは不足している。
- ・ 精神障害者が安心して退院、地域生活出来る体制づくり。
- ・ 当事者主体のサービスを促進するためにも、仲間同士の交流や支援があたりまえになるようなサービスシステムを望みます。
- ・ 自立支援アシスタント事業のようなものをもっと広く、多岐にわたってすすめて欲しい
- ・ 高齢化した精神障害者に対して内科的疾患や介護的サービスの支援がもっと必要とされるのではないかと。
- ・ 慢性期病院での入院が長期化していることから高齢者の入院患者が多い様子。症状が落ち着いている患者に対して在宅もしくはグループホームへの入所を進められる支援の強化。

- ・ 受診につながらない方（本人は病院に行きたくない等）であって精神科救急までに至らない方を医療機関につなげていく支援で具体的に利用しやすいものと考えていければと思います。
- ・ 自立に向けて休息のためなどにもっと気軽に利用できる場所があると良いと思います。（自立支援法の障害福祉サービスは区分認定に時間を要するため）
- ・ ショートステイはもっと気軽に使えるようになれば良いのにと考えた。利用できる所も少ない気がする。
- ・ 発病時の早急な早期支援体制。
- ・ グループホーム入所を希望している方は多いと思います。居住の確保は当区では難しい面もありますが、新しい環境にスムーズに不安なく適応できるような支援政策が必要だと思います。
- ・ 精神状態が不安定になった時に、かかりつけの医療機関でなくても緊急に診療や相談ののってくれる所があれば助かります。きちんと治療をうけることや各種サービスの必要性を本人に説明してくれる所があるといいです。
- ・ 家族への支援がまだまだ不十分だと思います。家族が本人の病気を受け入れられなかったり、家族自身の高齢化の問題も顕在化しています。生活支援センターが家族支援の力も十分持てるように整備していくことを期待します。
- ・ じっくりと当事者の話を聞いて、当事者の望む支援や意向を確認し関係機関との連携の際に通訳の役割を果たせる支援機能があれば良いと思う。
- ・ 入院と在宅の間の、いわゆる中間施設の整備していく必要性を感じています。中区ということであれば、アルコール、薬物等への依存症の方の受け入れ先をもう少し確保できればと思います。
- ・ 精神「障害者」の居場所として作業所等の拡充。

連携やネットワークに関すること

- ・ 他施設、他機関での職員同士の連携の強化により、とぎれのないネットワークづくりをすること、役割分担。
- ・ 医療機関や区のワーカーなど、もっと関係機関同士の連携が必要と思う。
- ・ 支援のサービス施設などは増えつつあるが各施設でのサービスの役割分担がうまくいかず、包括的に束ねてくれるケアマネ機能が欠落していると思います。私たちは民間医療の立場なのですが、常に連携についてジレンマをかかえています。
- ・ 医療機関のみでなく、ご家族や地域の関係機関の方々と協力して支援する体制作りがもっと広がるとよいと考えています。日頃からの関係作りが大切という認識を広げていきたいです。

医療に関すること

- ・精神科救急体制の整備。
- ・生活支援センター付の在宅医療チーム（精神科医、MSW、看護師）が、相談を受けつけて訪問する態勢をつくってほしい。
- ・内科の治療が必要なときに精神疾患があるために内科がある一般病院から、入院治療が断られることがあります。医療の受け入れ態勢があるとよいのですが。

障害の理解に関すること

- ・ 家族支援の第一は、家族の疾病・障害に対する正しい理解をはかること、そのため「家族による家族のための家族学習会」を普及させる。
- ・ 病気や障害に関する社会の理解。
- ・ 人に病名を言えないのは本当に辛いもので、早く知られる世の中になってほしいと願っています。
- ・ 地域社会に入っていくむずかしさを感じる。
- ・ 精神障害に対する社会の認知は低いと思います。へだたりをなくす地域福祉の場が必要だと思います。
- ・ 医師と当事者の信頼が築かれ、当事者と市民が対等に交わることができ、必要な支援が備えられること、市民の中で生活ができること等、人権が守られ当たり前の生活ができるようになることを望みます。
- ・ 一般市民への啓発活動、障害者に対する理解をもっと深められるようにしてほしい。当事者との交流をもっと行政の職員はしてほしい。
- ・ 啓発活動を社会に対して行っていただきたい。

その他

- ・ 自分達が高齢になり娘や孫の将来のことが心配。
- ・ アルコール依存症のメンバーはある程度回復できると就労も可能になります。室内作業や清掃作業、ケアプラザ等の仕事を下さい。
- ・ 運動プログラム等、月2回位（3時間／1回）利用できる体育館や温水プール施設（無料で）
- ・ 地域の方と交流でき、顔なじみができるようになってほしい。当事者のボランティアの育成。当事者同士で助けあえる場所や機会の提供。
- ・ ボランティア活動に限界があり資金もボランティアの数も少ない。

寿地区における精神保健福祉に関する意見交換会 報告書

(目的)

平成 24 年度以降の中区生活支援センター開所に向け、磯子区、栄区生活支援センターの職員から生活支援センターの現状と支援内容を説明していただき、寿地区の精神障害者の現状や生活支援センターの活用の仕方など関係機関・団体からの意見や提案を出していただく機会とする。

(日時) 平成 23 年 2 月 8 日 (火) 13:30～15:20

(場所) 自治労横浜会館 2 階会議室

(参加団体)

石川町クリニック、大石クリニック (わくわくワーク大石)、関内メンタルクリニック、ことぶき共同診療所 寿町勤労者福祉協会診療所、青山会関内クリニック、ポーラのクリニック、訪問看護ステーションコスモス 大石クリニックコスモヘルパーステーション、かながわヘルパーステーション、ことぶき介護、ケアサポート青空、ケアラインベガサス、居宅介護事業所やすらぎ、ことぶき福祉作業所、横浜市福祉サービス協会関内第二事務所、ヨコハマホームケアサービス、アルク・デイケア・センター、シャロームの家、風のバード、ほっとスペース関内、ギッフエリ、百合の樹、たのしい会、ろばの家、さなぎ達、家族会みなと会、かもめサポート、寿福祉プラザ相談室、寿地区自治会、寿地区民生委員協議会、横浜市中区社会福祉協議会、横浜市不老町地域ケアプラザ、中区役所保護課

(出された意見・提案)

- ◆新しくできる生活支援センターの場所が寿地区からは遠いため、歩いてすぐに立ち寄れる居場所作りが必要。
- ◆女性に対しての居場所が少なく、女性のエンパワメントを進めていく場を作ってほしい。
- ◆生活支援センターを寿地区の方が使いやすくするためにも送迎サービスがあると良い。
- ◆アルコール依存症の方が多いがアルコール依存症の回復後に就労支援や仕事できる場の提供があると良い。
- ◆ピアカウンセリングなどの当事者同士の相談の場があると良い。
- ◆金銭管理の支援をおこなえると良い。
- ◆重複して支援の受けている方のケアマネジメントや地域関係機関のネットワークを強化するための支援をしてほしい。
- ◆寿地区には既存の地域資源が多くあり連携できる仕組みが必要。
- ◆寿地区の方は高齢化しており、町から出ることが少ない傾向のため、寿の町から出る機会になるプログラムや支援があると良い。

(意見交換会のまとめ)

寿地区では地域社会資源が充実してきており、各団体・事業所がそれぞれの活動をとおして支援している現状がある。しかしそれぞれの活動が連携して課題解決していく仕組みを持っていないため、既存の地域関係機関のネットワークを作っていく支援が必要になっている。また上記に出された意見についても生活支援センターでできることを検討していける場 (連絡会等) が必要と考えられる。

「中区精神障がい者の地域生活支援を考える会」報告書

(経過)

中区では、平成 17 年度以前より家族会、作業所を運営する市民団体、ボランティアグループが中心となり「たまり場準備委員会」を開催していました。会の中から、「中区らしい拠点とは何か」「中区にとっての生活支援拠点とは何かを当事者も含め皆で考えたい」との要望が中区役所に寄せられました。

結果として、平成 17 年 5 月に開催された、中区役所主催の「精神保健福祉地域関係機関連絡会」の席上で、区内の関係機関に参加を呼びかけ、「中区精神障がい者の地域生活支援を考える会」（以下「考える会」）が発足しました。

平成 17 年 7 月から平成 18 年 10 月までの間に 12 回の「考える会」が開催され、当事者や関係機関、延べ 345 人が参加されました。

(参加の呼びかけ団体)

作業所、グループホーム、家族会、ボランティア団体、当事者団体、医療機関、行政機関

(開催内容)

平成 17 年度		
開催日	テーマと発言者	参加者数
7 月 1 日	「生活支援とは何か、中区の精神障がい者の現状について」 中区福祉保健センター障害者支援担当	35 人
8 月 1 日	事務局会議（前回の反省会と次回打ち合わせ）	8 人
9 月 12 日	「生活支援とは何か、病院の立場から」 ワシン坂病院・ことぶき共同診療所	30 人
10 月 24 日	「生活支援とは何か、家族や支援者の立場から」 家族会・シニアクラブ	33 人
11 月 28 日	「生活支援とは何か、当事者の立場から」 くつろぎの部屋、生活教室かもめ会、シニアクラブ ろばの家	43 人
1 月 30 日	「障害者自立支援法について、何が変わるのか」 中区福祉保健センター障害者支援担当	41 人
2 月 27 日	「生活支援とは何か、作業所職員の立場から」 はだしの邑、ろばの家、ほっとスペース関内	30 人
	講演会の実施（べてるの家の当事者研究）	525 人

平成 18 年度		
開催日	テーマと発言者	参加者数
4 月 24 日	「生活支援とは何か、グループホーム職員の立場から」 「生活支援とは何か、ボランティアの立場から」 すずらん荘、ベイサイド長者町	22 人
5 月 29 日	事務局会議（今年度の進め方について）	8 人
6 月 26 日	「中区の障害者のための福祉サービスについて」 「中区における生活支援センターの整備について」 中区福祉保健センター障害者支援担当	30 人
7 月 24 日	「地域生活を考える」 旭区ほっとぽっと	38 人
10 月 30 日	「地域生活を考える」～一人暮らしの立場から～ ろばの家の利用者	43 人

（「考える会」のまとめ）

「考える」は、中區に生活支援センターのような拠点が必要という共通の認識を持つ機会になりました。中區特有の課題や、当事者を含めた生活状況を、それぞれが提案し、報告することで連携を強化することができました。

中區の課題として①長期入院患者への働きかけ②ひきこもっている方達への働きかけ③親なきあとの当事者の生活④寿町の中での孤独死があり、これらを解消し支援するネットワークが大切という意見が出されています。

中区精神保健福祉ニーズに関するアンケート（当事者用）

（アンケートの目的）

この調査は、今後建設予定の中区での生活支援センターの機能やサービス内容を検討するための基礎資料を作成していくことを目的としております。

中区にお住まいで精神疾患のある方及び家族・支援者（施設職員・ボランティア等）を対象としてアンケートを実施し、生活支援センターに対するニーズや意見を把握していきたいと考えておりますので、アンケートの御回答に御協力をお願いします。

※以下の質問で該当する項目に□をチェックしてください。

記入例：1、あなたの性別は（男性 ・ 女性）

1、あなたの性別は 男性 ・ 女性

2、あなたの年齢は 0～18歳・19～29歳・30～39歳・40～49歳・50～64歳・65歳以上

3、あなたは、現在どなたと生活していますか

配偶者（妻又は夫）・子・親・上記以外の親族・友人・恋人・
その他（ ）

4、あなたのお住まいの形態は

自宅（持ち家または賃貸住宅）で家族や友人と暮らしている。
自宅（持ち家または賃貸住宅）で一人暮らししている。
簡易宿泊所で暮らしている グループホームで暮らしている
施設で暮らしている 入院中（帰る先がある）
入院中（帰る先がない） その他（ ）

5、あなたが受けている精神科等の治療について

(1) 初めて精神科・神経科・心療内科等を受診してから経過した年数は、何年ですか

5年未満・5年以上10年未満・10年以上20年未満・20年以上30年未満・30年以上

(2) 入院経験の有無・入院回数・入院期間について

入院経験 有り ・ 無し

入院回数 1回・2回・3回・4回・5回・5回～9回・10回以上

入院期間（合計期間）

1ヶ月未満・1ヶ月以上～3ヶ月未満・3ヶ月以上～6ヶ月未満・6ヶ月以上～1年未満
1年以上3年未満・3年以上5年未満・5年以上10年未満・10年以上

(3) 現在通院・入院している医療機関はどちらですか

中区内・横浜市内（中区以外）・神奈川県内（横浜市以外）・神奈川県外

※ 現在入院中の方のみ回答下さい。

(1) 退院希望（有り・無し・わからない）

(2) 退院したいが、できない理由は

家族や協力者がいない 家族や協力者がいるが、反対している お金がない
戻る場所がない 病気が回復していない 退院のイメージがつかない
退院の手段がわからない その他（ ）

6、あなたは日中どのように過ごしていますか

(1) 日中の過ごし方（複数回答可）

区福祉センターの生活教室に参加している 病院や診療所等のデイケアに通っている
地域作業所に通っている 自助グループ等ミーティングに通っている
授産施設（港風舎・ワートレ）や就労訓練施設等に通っている
生活支援センターに通っている 学校に通学している
仕事やアルバイトをしている 家で療養している
家事や育児をしている 家族の介護している
その他（ ）

(2) 日中の過ごし方に満足していますか

①精神科・神経科等の治療や療養

（満足・大体満足・どちらかという不満・不満・どちらとも言えない）

②①以外の健康管理

（満足・大体満足・どちらかという不満・不満・どちらとも言えない）

③仕事……………（満足・大体満足・どちらかという不満・不満・どちらとも言えない）

④収入……………（満足・大体満足・どちらかという不満・不満・どちらとも言えない）

⑤食事や片付けなどの身の回りのこと

（満足・大体満足・どちらかという不満・不満・どちらとも言えない）

⑥住まい確保（満足・大体満足・どちらかという不満・不満・どちらとも言えない）

⑦趣味生きがい（満足・大体満足・どちらかという不満・不満・どちらとも言えない）

⑧人付き合い（満足・大体満足・どちらかという不満・不満・どちらとも言えない）

7、あなたは日頃の相談をどうされていますか

(1) 日頃身近に相談できる人はいますか（いる ・ いない）

相談相手が「いる」と回答された方のみ御回答ください。

a 相談相手はどなたですか（複数回答可）

家族・友人や知人・医療機関の職員・グループホームや入所施設などの職員
生活支援センターの職員・作業所職員・区福祉保健センター職員・ボランティア
その他（ ）

b 日常生活の相談の満足度はいかがですか

満足・だいたい満足・やや不満・不満・どちらともいえない

bで「やや不満・不満・どちらともいえない」に回答された方のみ御回答下さい。（複数回答可）

相談の時間が足りない 休日や夜間に対応してくれない
答えがはっきりしない 対応が冷たい感じがする
予約をしないといけない 誰に相談したらいいかわからない
相談しても答えが出るものでない
その他（ ）

※裏面もあります。

8、あなたの仕事やアルバイトの状況について

- (1) 現在、一般就労やアルバイトをしていますか (している ・ していない)
- (2) 就労意向《現在就労していない方のみ》 (有り・無し・どちらともいえない)
- (3) 就労継続意向《現在就労している方のみ》
(続けたい・続けたくない・どちらともいえない)
- (4) どのような仕事に就きたいですか《現在未就労で就労希望者のみ》
- 毎日自宅から通勤し、フルタイムで仕事したい
- 毎日通勤したいが、勤務時間は短時間の仕事
- 自宅から通勤したいが、勤務日数は少ない仕事
- 自宅でパソコンや内職仕事
- 地域作業所や授産所などに通って、作業に取り組みたい
- わからない
- その他 ()
- (5) 仕事をするには、どんな支援があったらいいですか (複数回答可)
- 精神障害に理解のある職場を紹介して欲しい
- 自分にあった仕事について、情報を提供してくれる所が欲しい
- 仕事で困ったときに気軽に相談できる窓口をつくって欲しい
- 規則正しい生活ができるように援助して欲しい
- パソコン技術など仕事に役立つ技術を身につけたい
- 人との付き合い方を教えて欲しい
- ビジネスマナーや一般的な教養を身につけたい
- 定期的に仕事の様子を見たり、相談にのって欲しい
- 仕事に慣れるまで、マンツーマンで指導して欲しい
- 上記のような援助やサービスの必要はない
- その他 ()

9、今後の生活をあなたは、どうされたいですか

- (1) 将来誰と暮らしたいですか
- 家族や友人と暮らしたい
- 一人で暮らしたい
- GHで暮らしたい
- 施設で暮らしたい
- その他 ()
- (2) 生活するのにあったらよいと思う支援は (複数回答可)
- 友達や話し相手を見つけたい
- 人との付き合い方を教えて欲しい
- 気軽に行ってくつろげる場所が欲しい
- 家族や周りの人にもっと病気のことを理解して欲しい
- 自分の病気のこともっと知りたい
- 健康相談にのってほしい
- 夜間や休日に相談したい
- 夜間や休日に集まって安らげる場所がほしい
- 調子の悪いときなどにちょっと泊まれる所がほしい
- 夜間や休日に通院したい
- 生活全般について気軽に相談できる場所が欲しい
- 料理を教えて欲しい
- お金の使い方を助言してほしい
- 風呂に入れるところがほしい
- 洗濯や掃除等の家事を手伝って欲しい
- 仕事に就く手伝いをしてほしい
- 仕事を続ける手伝いをしてほしい
- 生活費や小遣いをもっと欲しい
- その他 ()

10、あなたが、今後やってみたいこと何ですか (自由記述)

趣味や習い事・仕事・交友関係・住まい方・今後の生活・結婚・その他

中区精神保健福祉ニーズに関するアンケート（家族・支援者用）

（アンケート目的）

この調査は、今後建設予定の中区での生活支援センターの機能やサービス内容を検討するための基礎資料を作成していくことを目的としております。

中区にお住まいで精神疾患のある方及び家族・支援者（施設職員・ボランティア等）を対象としてアンケートを実施し、生活支援センターに対するニーズや意見を把握していきたいと考えておりますので、アンケートの御回答に御協力をお願いします。

※以下の質問で該当する項目の□をチェックしてください。

記入例：1、あなたの性別は（ 男性 ・ 女性 ）

1、あなたの性別は 男性 ・ 女性

2、あなたの年齢は

0～18歳 ・ 19～29歳 ・ 30～39歳 ・ 40～49歳 ・ 50～64歳 ・ 65歳以上

3、当事者の方の年齢は

10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代以上

4、当事者との関係は

家族（親子） ・ 家族（兄弟） ・ 家族（親子・兄弟以外）
ボランティア 地域作業所 ・ グループホームや施設の職員
その他（ ）

5、当事者の方の生活について家族・支援者の方はどうに感じていますか

- ① 当事者の精神科・神経科等の治療や療養
（満足 ・ 大体満足 ・ どちらかという不満 ・ 不満 ・ どちらともいえない）
- ② ①以外の当事者の健康管理
（満足 ・ 大体満足 ・ どちらかという不満 ・ 不満 ・ どちらともいえない）
- ③ 当事者の仕事
（満足 ・ 大体満足 ・ どちらかという不満 ・ 不満 ・ どちらともいえない）
- ④ 当事者の収入
（満足 ・ 大体満足 ・ どちらかという不満 ・ 不満 ・ どちらともいえない）
- ⑤ 当事者の食事や片付けなどの身の回りのこと
（満足 ・ 大体満足 ・ どちらかという不満 ・ 不満 ・ どちらともいえない）
- ⑥ 当事者の住まいの確保
（満足 ・ 大体満足 ・ どちらかという不満 ・ 不満 ・ どちらともいえない）
- ⑦ 当事者の趣味や生きがい
（満足 ・ 大体満足 ・ どちらかという不満 ・ 不満 ・ どちらともいえない）
- ⑧ 当事者の人付き合い
（満足 ・ 大体満足 ・ どちらかという不満 ・ 不満 ・ どちらともいえない）

6、当事者のためにどのような支援があったらよいと思いますか（複数回答可）

- 精神障害者が仕事に就けるような援助
- 精神障害者が困ったときに気軽に相談できる相談窓口の整備・充実
- 精神障害者が自立した生活ができる住宅の確保
- 精神障害者が安心して日中過ごすことのできる場の整備
- 医療体制の充実
- 経済的な援助制度
- 一般の人と交流する機会
- 家事など身の回りのことの援助
- 精神障害者の財産を管理する制度
- 精神障害者同士で交流する機会
- その他（ ）

※ 家族の方のみ御回答下さい。

7、家族の意識とニーズについて（複数回答可）

- (1) 当事者との生活で困っていることはどのようなことですか
 - 家族がいなくなった時のことが心配
 - 本人が自立できない
 - 会話が難しい
 - 病状が悪化したときの対応が難しい
 - 生活費や医療費など経済的に大変
 - 病気がどうなっていくのか心配
 - 相手をするのが大変
 - 病気のことで偏見や差別を受けたことがある
 - 本人が病気を理解していない
 - 自分の時間がもてない
 - 住居が狭い
 - 休日や夜間の対応
 - 家族の間で、本人の件でいさかいになる
 - 相談する人がいない
 - 家事が大変
 - 本人の行き場がない
 - 悩みをわかってくれる人がいない
 - 本人への対応がわからない
 - 困ることない
 - その他（ ）
- (2) あなたが日頃相談している方はどなたですか
 - 家族、親戚
 - 主治医や看護婦
 - 家族の仲間
 - 区福祉保健センター職員
 - 作業所、GH、入所施設の職員
 - 病院のソーシャルワーカー
 - 家族以外の友人、知人
 - ボランティアのひと
 - その他（ ）
 - 相談できる人はいない
- (3) 相談相手の満足度についていかがですか
（満足 ・ 大体満足 ・ どちらかという不満 ・ 不満 ・ どちらともいえない）
相談相手の満足度が「どちらかという不満」「不満」と回答された方のみ御回答ください。
その理由はどのようなことですか
 - 身近に相談できる人がいない
 - 相談の時間が足りない
 - 休日や夜間に対応してくれない
 - 答えがはっきりしない
 - 対応が冷たい感じがする
 - 予約しないといけない
 - 誰に相談してよいかわからない
 - 相談しても答えが出るものでない
 - その他（ ）

※裏面もあります。

中区精神保健福祉業務統計（平成 21 年度）

中区人口 146,120 人、横浜市人口 3,672,985 人（平成 22 年 4 月 1 日時点）

商業施設や官公庁、オフィスビルが多く、昼間人口が夜間人口より多くなっていること
外国人登録者が 18 区中 1 位であることなどが特徴です。

① 平成 21 年度 精神保健福祉指導基礎票統計

（平成 22 年 3 月 31 日現在）

	統合失調症	感情障害	非定型精神病	てんかん	知的障害	老人性精神障害	器質性精神障害
合計	1,213	1,225	40	168	65	295	85

	神経症	心因反応	中毒性精神障害			その他の病名	計
			アルコール	覚醒剤	他の薬物後遺症		
合計	351	182	853	271	75	577	5,400

（単位：人）

② 精神障害者保健福祉手帳所持者数

（平成 22 年 3 月 31 日現在）

	H20 年度	H21 年度
1 級	189	203
2 級	694	713
3 級	521	566
計	1,404	1,482

（単位：人）

③ 自立支援医療受給者数

（平成 22 年 3 月 31 日現在）

	H19 年度	H20 年度	H21 年度
中区	2,234	2,407	2,549
市全体	35,151	37,738	40,310

（単位：人）

④ 中区における精神保健福祉統計

（平成 17 年度～21 年度の推移）

	基礎票把握数		手帳所持者数		相談訪問件数	24 条通報件数	
	市全体	中区	市全体	中区	中区	市全体	中区
17 年度		3,348 人		806 人	4,438 件		45 件
18 年度	59,475 人	4,308 人	14,133 人	1,082 人	4,283 件	350 件	72 件
19 年度	62,183 人	4,729 人	15,723 人	1,272 人	4,355 件	343 件	31 件
20 年度	66,657 人	5,034 人	17,304 人	1,404 人	4,825 件	365 件	44 件
21 年度 <small>（人口 4/1 時点）</small>	73,073 人 <small>（3,672,985 人）</small>	5,400 人 <small>（146,120 人）</small>	19,152 人	1,482 人	4,387 件	380 件	24 件

中区生活支援センターの地域から期待される機能について

1 検討にあたって

平成 22 年実施のアンケート調査や各種連絡会等を経て、中区精神保健福祉についての現状・課題・特性などを集約しまとめた。

2 現状課題

- ① 簡易宿泊所、ワンルームマンションが多く、ひとり暮らしの精神障害者が多い。
1 世帯当りの人数は 18 区中、西区と並び最少。
- ② 複雑な生活課題を抱え、社会的自立が困難な人が多い。
精神保健福祉手帳所持率、生活保護率、自殺率は 18 区中 1 位。

3 特性

多様なニーズに個別に対応する社会資源が豊富

- * 医療：クリニック（相談・治療）… 17 ヲ所
病院（緊急時のバックアップ）… 2 ヲ所
- * 生活：作業所（日中活動）… 6 ヲ所
アディクション自助グループ（日中活動）… 5 ヲ所
グループホーム（生活の場）… 5 ヲ所
- * 福祉：事業所・支援団体（自立支援サービス）… 17 ヲ所

4 地域から期待される機能

①幅広い場の機能

- ・ 地活ホームとの一体的整備というメリットを活かした運営
- ・ 当事者の主体性を育て社会参加につなげる場

②孤立防止の機能

- ・ 孤立を防ぐ身近な相談先・居場所の提供
- ・ 「いのち たいせつ（自殺予防）事業」のフロントライン（電話相談）

③関係機関とのネットワーク機能

- ・ 関係機関・地域・家族をつなぐ交流や連携の拠点